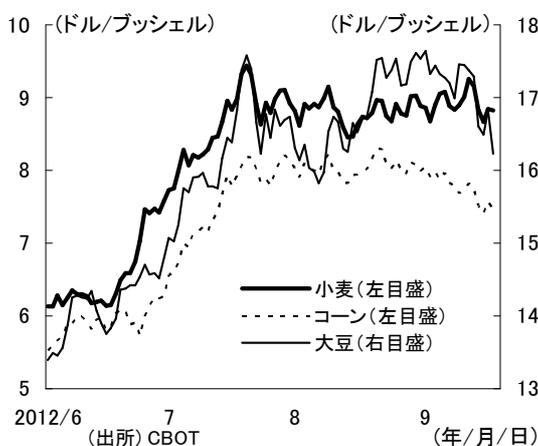


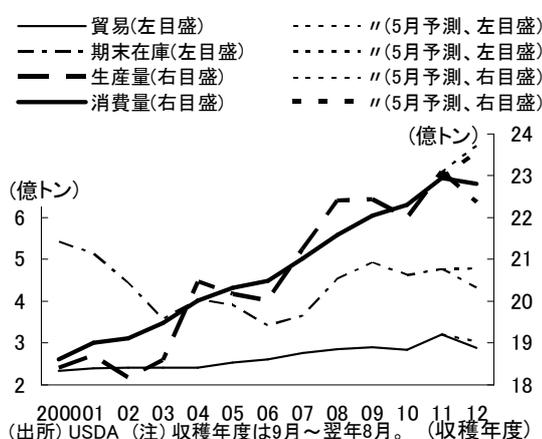
一段の穀物需給逼迫懸念 ～ ハイペースの中国穀物輸入 ～

- 9月10日過ぎから大豆やコーン価格が軟調（図表1）。小麦は7月半ば以来、1ブッシェル当たり9ドル前後で一進一退。それに対して大豆やコーン価格は13日前後から値下がり。まず9月に入り、大豆やコーンの収穫が始まり、現物供給圧力増大への期待拡大。例年、収穫期で看取される動き。次いで収穫期直前の8月末から9月初、大豆やコーンの生産地である中西部ではハリケーン・アイザックによる降水に恵まれ、収穫懸念が緩和。さらに12日、米農務省が世界農産物需給見通しを公表。
- 9月見通しは2012収穫年度の見方をさらに修正（図表2）。当初の5月見通しと対比すると、穀物需給全体では、生産量は既往最大のマイナスに陥るものの、消費量の減少と在庫の取り崩し、貿易取引の後退でバランスする見通し。消費量の減少には採算悪化で需要が減退しているエタノール用コーンが含まれる一方、生産面では早魃に伴う価格高騰でブラジルやアルゼンチンのコーンや大豆生産が増大、および値上がりでタイやパキスタンの米生産が増加して、需給逼迫の深刻化が回避へ。
- しかし新興国が急成長し始めた2000年以降、消費量の前年比減少は皆無。さらに在庫の取り崩しを進めても、なお国内生産が需要の増加に追いつかない場合、輸入への依存増大が不可避ななか、9月予測では既往最大の貿易量前年比マイナスを展望。現状、貿易減の行方は不透明。世界最大の穀物消費国である中国をみると本年1～8月の穀物輸入量が大幅増（図表3）。統計が取れる2006年から11年まで6年平均と12年で1～8月の輸入量を対比すると、すでに輸入依存度の大きい大豆でも輸入量が1.5倍増。これまで輸入依存度が低かったコーンや小麦、米は本年に入り、大幅輸入増。
- 今後の天候次第で見通し通りの収量が確保される可能性は存在。しかし、少なくとも2006～11年平均に対する本年1～8月の中国の穀物輸入増加量は、大豆を除くと、9月米農務省予測で示された2012収穫年度の同国年間輸入量の同増加量をすでに凌駕（図表4）。一段の穀物需給逼迫が視野。

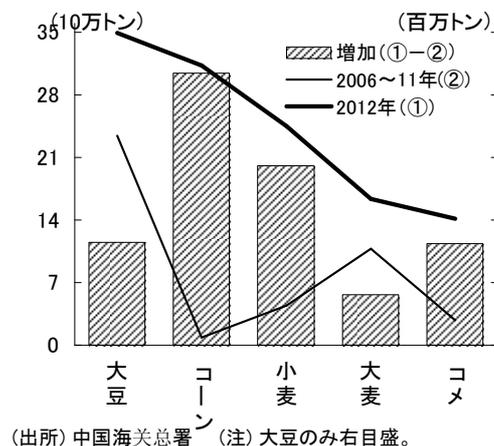
（図表1）穀物価格の推移



（図表2）世界の穀物生産・消費、貿易、在庫量



（図表3）中国の穀物輸入（1～8月）



（図表4）2012年度中国穀物輸入見通し（米農務省）

